

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	101人	社会	101人	数学	101人
	理科	101人	英語	101人		

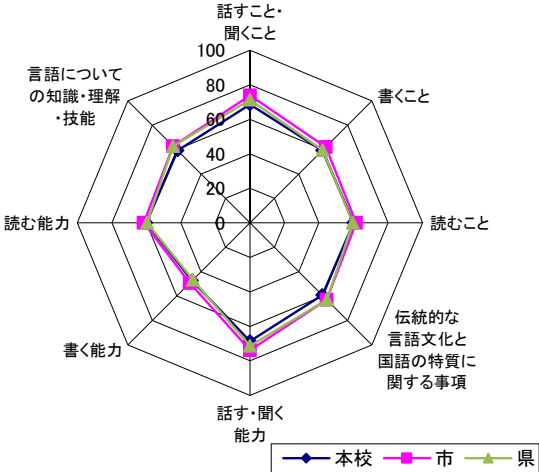
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	68.6	73.8	71.3
	書くこと	59.4	62.2	59.6
	読むこと	60.0	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.2	62.9	63.1
観点	話す・聞く能力	68.6	73.8	71.3
	書く能力	47.4	49.2	46.8
	読む能力	60.0	61.5	59.6
	言語についての知識・理解・技能	59.2	62.9	62.9



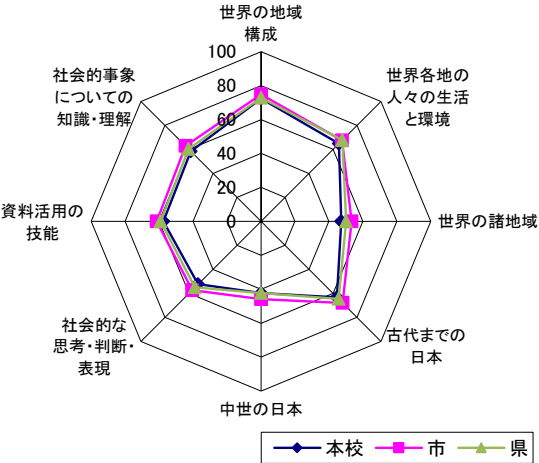
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●県の平均をやや下回っている。 ●聞き手に理解してもらうための話の構成や話し方の工夫を捉える力が、やや不足している。 ○出された意見をよりよくするための工夫について、自分の意見をもつことができる。	・定期的に行っている聞き取りテストにおいて、話の構成や話し方の工夫にポイントを絞って指導を行ってから行うようにする。 ・様々な聞き取りテストを行い、目的に応じて内容を聞き取れるように指導していく。 ・「話すこと・聞くこと」の授業内容を工夫し、質問事項を考えながら聞く学習内容を取り入れていく。
書くこと	○県の平均と同じくらいである。 ○二者択一の文章を書く場合に、条件に従って書くことができる。 ○自分の意見を、根拠を明確にし、まとめることができる。	・授業で、自分の意見や考えをまとめる時間を設け、根拠を明確にして書くように指導をしているので、継続して指導していく。 ・様々な種類の文章が書けるように、授業内容を工夫していく。
読むこと	○県の平均と同じくらいである。 ○登場人物の心情描写に注意して読み、心情を正確に捉えることができる。 ●説明的文章の読み取りに力不足な面がある。 ●文章の構成や展開に注意しながら要旨を捉える力が、やや力不足である。	・文学作品の読み取りは、意欲も高く、伏線に気をつけて読むことができるので、引き続き学習内容に取り入れていく。 ・説明文の読み取りに苦手意識が強い傾向があるので、構成や接続語に注意して要旨をまとめる授業内容を強化していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●県の平均を下回っている。 ●単語についての理解が力不足である。 ●既習事項の漢字を書くということに、力不足がある。 ○歴史的仮名遣いを理解して現代仮名遣いに直すことができる。	・言語事項を扱う単元において、補充学習を取り入れ、学習内容が定着したかどうかを確認する。 ・補助教材を利用し、家庭学習の啓発も行う。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	72.4	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	64.9	67.5	67.8
	世界の諸地域	47.3	53.4	50.2
	古代までの日本	63.3	68.0	64.6
	中世の日本	42.2	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	52.4	57.3	55.0
	資料活用技能	57.5	61.4	59.1
	社会的な事象についての知識・理解	58.4	62.9	60.3



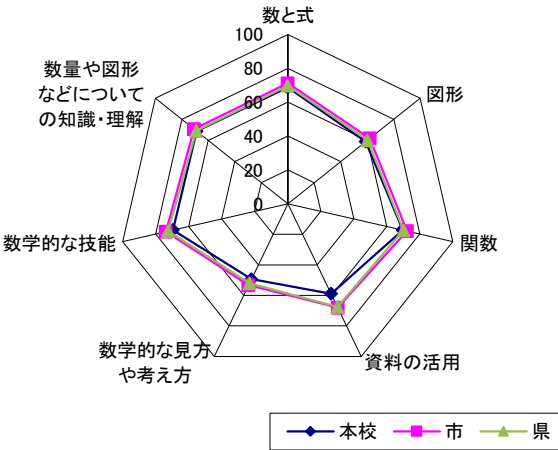
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○平均回答率は県とほぼ同じ。 ●緯度と経度の理解をもとに、地図を読み取ることが苦手である。	・授業を通して基本的な知識をしっかりと押さえ、定着できているか日々小テストを実施し知識理解の定着を図る。 ・地図や資料の読み取りを授業の中で積極的に取り入れ、資料の活用能力を高めていく。
世界各地の人々の生活と環境	○世界各地の雨温図を読み取ることがよくできている ●世界の人々の生活について判断する問題の正答率が低くなっている。	雨温図を読み取ることが得意としているが、どこの地域のものなのかがわからな生徒が多い。大まかな気候区分を理解し、人々の生活と結びつけて理解を深める必要がある。
世界の諸地域	○ヨーロッパの特色を理解できている。 ●ヨーロッパ連合の現状について、複数の資料を読みとって考察し、説明することが苦手である。	・統計資料や図、写真の読み取りを授業の中で積極的に行い、資料の活用能力を高める工夫を行う。
古代までの日本	○邪馬台国や聖徳太子などについての知識はよく身についている。 ●大和朝廷の支配の広がりについて、資料をもとに判断することが苦手である。	・記述式の正答率が低いことから、資料を読み取る力に加え、表現する能力を高めるために、レポート・話し合い・相互評価などの効果的に授業に取り入れる。
中世の日本	○平均正答率は県の平均とほぼ変わらない。 ●年表の表し方について理解が不十分である。また、中世の日本の史実について、順番を整理することが苦手である。	・授業を行う際に現在学習しているところの時代はどのなのかを常に意識をして授業を展開していく。 ・小テストなどで年表に関する問題を取り上げる。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	68.8	71.2	69.8
	図形	58.9	61.9	60.2
	関数	69.6	72.1	70.1
	資料の活用	58.9	68.0	67.6
観点	数学的な見方・考え方	49.4	53.4	52.1
	数学的な技能	69.5	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	68.8	70.8	69.1



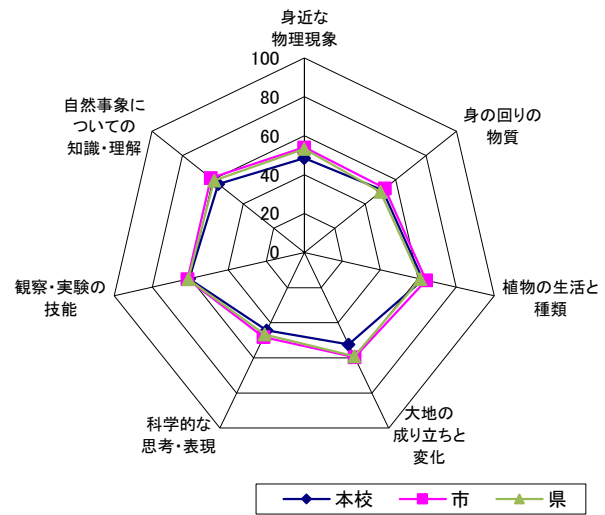
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○基本的な式の計算は理解し、できる。市平均、県平均とあまり変わらない。 ●数と式での活用になると苦手意識が高い。	・繰り返し計算の学習をさせて、定着させる。活用の問題も数多く解くように指導する。
図形	○作図は意欲的に取り組む。 ●円とおうぎ形や立体の体積・表面積を苦手と感じる生徒が多い。	・平面図形や空間図形は1年生独自の内容なので、復習する機会が少ないので、定着を図るのが難しい。朝の学習において図形についても取り上げたい。
関数	○グラフと表と式との関連を理解することができている。グラフをかくことが好きである。 ●活用が苦手。文章を読み取ることができない。	・2・3年で学習する関数の時に学び直しや既習範囲を復習しながら学習する。活用において、必要な文章をアンダーラインを引きながら読むように指導する。
資料の活用	○授業は楽しく取り組んでいる。 ●学習内容が定着していない。	・もっと時間をかけて学習させる。復習が必要。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	48.5	54.0	53.3
	身の回りの物質	51.4	52.9	50.0
	植物の生活と種類	62.5	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	52.4	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	44.4	48.2	46.7
	観察・実験の技能	60.6	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	56.5	61.4	59.2



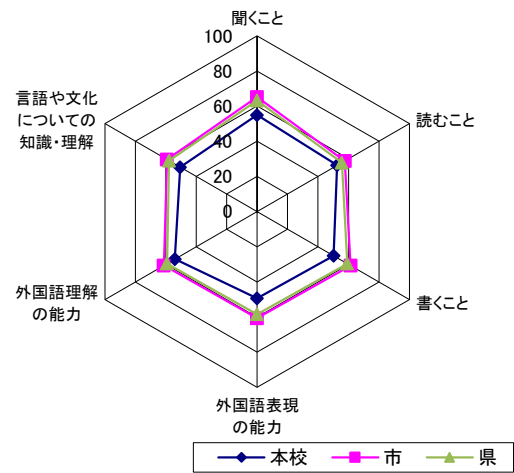
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	●用語「焦点」の正答率が前年に比べて低くなった。また、光の反射の範囲を考える問題では前年に比べて低く、さらに正答率が30%を切っている。 ●水圧のはたらきを図で表す問題への正答率が前年に比べて低くなった。 ●バネののびについてグラフを読んで答える問題で正答率が低下した。 ○前年に比べて少しずつ正答率が上がってきている箇所もあった。	・理科学用語を答えるときに漢字が曖昧だと、基礎内容まで理解が不十分になりやすいと考えられるので、用語の漢字書き取り用紙を作成してやらせることで、基礎固めの一環としたい。
身の回りの物質	●前年に比べて正答率が大きく低下した項目はない。 ○濃度をモデル図で表す問題では前年を上回った。 ○ガスバーナーの使い方など前年に比べて少しずつ正答率が上がってきている項目が比較的多くある。	・身の回りの物質について実物を用いて授業展開することで正答率は維持向上されていくと考えている。
植物の生活と種類	●顕微鏡の使い方では県平均に比べて正答率が低く、さらに正答率が30%を切っている。 ○しかし、その問題について校内正答率では前年に比べて向上している。 ○植物分野では前年に比べて少しずつ正答率が上がってきている項目が見られる	・顕微鏡の使い方の問題では問題を理解せずに解答しようとするがあるので、問題文をよく読んで問題を理解するところから始めたい。具体的には教科書の音読や読後の問いかけなどで文章を理解する力をつけていきたい。
大地の成り立ちと変化	●深成岩のつくり、地震の波の伝わりかた、柱状図の利用の問題で県平均を大きく下回った。 ○主要動を答える問題の正答率はわずかに上がった。	・いずれも科学的思考力が問われる問題なので、この領域は知識に重点が置かれていると思われるのを払拭する必要があると思う。授業での具体策は知識を積み上げていくときに科学的思考の過程を通過していることを強調していきたい。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	54.9	65.2	63.2
	読むこと	52.6	57.6	55.6
	書くこと	50.2	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	49.4	60.7	58.4
	外国語理解の能力	54.0	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	50.5	59.2	57.8



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●対話文や疑問文などが入る英文の聞き取りについては、県や市と比べて正答率が特に低く、聞いた内容を即座に理解することができない生徒も多かった。	・全体的に1年生の内容への理解が不十分であったことが考えられる。このことから1年生の復習も少しずつしていくことで、理解が不十分な内容については改善していきたい。 ・英語を聞いたり話したりということを多く取り入れた授業を展開していくことで、英語を聞き取る力をつけていきたい。具体的には、簡単な指示や説明は英語で行いながら生徒に内容を理解させたり、ALTとの授業の中で、説明や話を聞く機会を増やしたりすることで改善していきたいと考えている。
読むこと	○対話文を読んで内容を把握することや、まとまりのある長い英文を読んで文脈を把握することができる。県の平均よりそれぞれ2.5ポイント、4.7ポイント高い。 ●まとまりのある英語の読み取りや文法を理解する力が身についていない。細かな内容について理解できていない生徒も多く、基本的な単語の語彙力がないため、詳しく読み取れていないのだと思われる。	・英文を読むということに苦手意識を持っている生徒が多いため、まずは教科書の一つ一つの単語について、発音に注意しながら正確に読み取ることを基本とした授業を展開していきたい。そのなかで、長文や短文などさまざまな英文に触れさせていき、正確に読み取る力をつけさせたい。 ・単語や文法を理解する力についても高めていきたい。短い文を読めるようになることで、英文を読むことへの苦手意識をなくしていき、最終的には長文であっても、すらすらと読み取る力をつけさせていきたいと考えている。
書くこと	●特に、並べかえ問題では、ただ単語を並べるだけで英文として成り立っていないような誤答をする生徒が多かった。	・この調査の結果を受け、授業の中では文法に力を入れて指導するように心がけている。 ・英作文では、例文を提示し、例文を参考にしながら書くよう声かけをしている。主語と動詞をしっかりと書くことで全体的な成り立ちを構成させ、より複雑な表現も書くことのできるよう指導しているところである。最近では、身近なことを簡単な英文で表現できるようになった生徒も増えてきているため、今後もこのような指導を継続していきたい。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定割合は95.0%と高く、県の割合を7%も上回っている。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定割合は95.0%で、県より6.1%上回っている。この意識は、「家で、自分で計画を立てて勉強している」、「家で、学校の宿題をしている」、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合が市や県を上回っていることに現れている。

○「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」と感じている生徒が多く、また「クラスは発言しやすい雰囲気だ」、「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」、「先生は学習のことについてほめてくれる」の肯定割合が市や県を上回っているので「授業を集中して受けている」ことができるようだ。

○学校生活では、「学校のきまりを守っている」90.1%、「学校での役割や係の仕事に責任を持って取り組んでいる」93.1%と、はじめのある生活をしていることがわかる。また「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」93.1%、「人と話すことは楽しい」95.0%、「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」93.1%と、友人関係も良好に築こうとしていることがわかる。

○家庭生活においても「毎日、朝食を食べている」92.0%、「早寝、早起きを心がけている」76.3%、「食事のとき、好ききらいをしないで食べている」88.1%。と肯定割合が高く、きちんとした生活を心がけていることがわかる。

●宿題には意欲的に取り組んでいるが、「家で、学校の授業の予習をしている」40.6%、「復習をしている」66.3%と、市や県を大きく下回っており、各教科の平均点が県の平均点よりやや下回っていることから、理解の定着がなされていないことがわかる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」68.3%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」43.5%なので、言語活動の充実を授業で展開することが望まれる。

●「家の人と将来のことについて話すことがある」73.3%だが、「将来の夢や目標をもっている」生徒は70.3%と県より6.0%低く、今後の進路指導を充実させていきたい。